福井を売り込もう！・福井に呼び込もう！

平成26年度に予定される北陸新幹線の金沢開業、舞鶴若狭自動車道の全線開通など、高速交通ネットワーク体系の整備に伴い、本県の立地条件が格段に向上します。この機会を、観光誘客やビジネスチャンスの拡大、県勢発展につなげようと、県では、さまざまな活動を展開しています。

北関東・信越に福井を売り込み

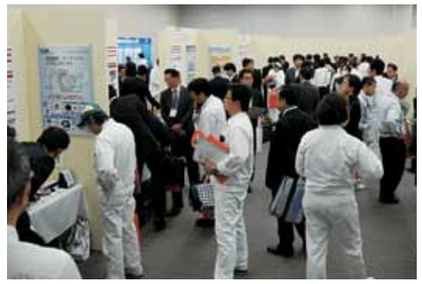
北陸新幹線の金沢開業により、北関東や信越エリアから、本県への移動時間が大幅に短縮され、人の交流も増加することが見込まれます。

このため、県では、こうしたエリアをターゲットとした誘客戦略を集中展開。11月には、沿線主要駅である大宮駅（埼玉県）、高崎駅（群馬県）、長野駅（長野県）に、福井の主要ブランド「越前がに」や「恐竜」の巨大看板等を設置し、福井の魅力をアピールしました。

1日に23万人が利用するJR大宮駅で越前がにをPR

また、各駅構内で、ステージイベントや県産コシヒカリの無料配布など、出向宣伝を行ったほか、各地元のメディアや旅行代理店を訪問し、福井を強力にPRしました。

同じく、11月には栃木県で、大手自動車メーカーのホンダやその関連企業に、県内企業の技術、製品を売り込む展示商談会を開催。軽量化や燃費向上、電力消費抑制など、ハイブリッド車、電気自動車などの性能向上につながる技術の数々を提案しました。


世界的企業ホンダに高いものづくり技術を発信

観光客の呼込みを促進

金沢開業後に、富山県や石川県を訪れた観光客が、本県まで足を運ぶ対策も進めています。

今年度は新たに、あわら温泉と恐竜博物館、永平寺を結ぶ直行バスや、あわら温泉を拠点に、東尋坊や雄島、三国湊など周辺の観光スポットを周遊する特急バスを実証運行。この結果を活かして、県内の二次交通アクセスをさらに充実させていきます。

加えて、石川県の県境エリアで連携した誘客活動も展開。関係自治体などで「越前加賀広域観光推進協議会」を設立し、自転車で各エリアを巡るイベントや、グルメフェスタなどを開催しました。

このほか、今年10月には、県観光ホームページ「ふくいドットコム」を全面リニューアル。「福井の食」に関する情報を充実させたほか、宿泊予約機能や、周辺観光地の検索機能を強化しました。また、スマートフォンにも対応させ、観光客の利便性を高めました。

舞鶴若狭自動車道 全線開通後の所要時間短縮

経路	現行	舞若道開通後	短縮時間
敦賀IC～岡山IC（岡山県）	4:21※	⇒3:48	⇒33分
敦賀IC～鳴門IC（徳島県）	4:07※	⇒3:34	⇒33分
小浜IC～名古屋IC（愛知県）	2:25	⇒1:52	⇒33分
小浜IC～京都南IC（京都府）	2:13	⇒1:50	⇒23分

※舞鶴若狭自動車道利用の場合

金沢開業後の各都市までの所要時間（最速値）

経路	現行	金沢開業後	短縮時間
福井～大宮（埼玉県）	4:02	⇒2:55	⇒1時間07分
福井～長野（長野県）	4:16	⇒1:54	⇒2時間22分

※現行の所要時間は、H24.3.17改正ダイヤの最速値を使用
※開業後の所要時間は、『「収支採算性及び投資効果の確認」に関する参考資料』、『収支採算性及び投資効果に関する詳細資料』（H24.4.3 国土交通省 整備新幹線小委員会）および時刻表（H24.3）に基づく最速値
※所要時間は想定値であり、開業後の運行ダイヤはJRが決定

「越前・加賀グルメフェスタin越前おおの」（10月21日）

嶺南の魅力を発信

舞鶴若狭自動車道の全線開通により、嶺南へのアクセスも大幅に向上し、関西圏、中京圏はもちろん、中国、四国エリアとの交流も深まります。

これを機に、嶺南への誘客をさらに促進しようと、今年秋に、普段は公開されていない数々の秘仏など、若狭の貴重な文化財の特別公開を初めて企画。また、これに合わせ、秘仏を巡るガイド付きツアーバスも実証運行し、県内外から多くの観光客が訪れました。

このほか、嶺南の民宿や飲食店を対象に、一流料理人が指導する料理講座を開くなど、お手ごろ価格で、嶺南の新鮮な地魚や食材が楽しめる昼食メニューづくりを支援しています。

嶺南での昼食メニューづくり支援講座（11月25日）

加えて、「若狭ふぐ」の魅力発信も強化。首都圏や関西でふぐ販促キャンペーンを展開するなど、嶺南の冬を代表する味覚を、県内外にPRしています。

新たなまちづくりを応援

新幹線時代に向けた新たなまちづくりにも力を入れています。

県都・福井市では、20年を見据え、歴史や自然、文化を活かしながら、市中心部のまちづくりを再設計する「県都デザイン戦略」を推進。福井市と連携し、専門家らによる議論を進め、10月に骨子案をまとめました。11月には、皆さんと一緒に考えるフォーラムも開催。今年度内に「ふくい県都ビジョン」を策定する予定です。

また、県内の各市町が、観光地としてのまちなみの魅力を高める活動も、ハード、ソフト両面で支援しています。

「県都デザインフォーラム」（11月26日）

特に、新幹線沿線の市町に対しては、駅周辺等のまちづくりを検討する場に、専門アドバイザーを派遣し、情報提供や助言を行うなど、市町の主体的な活動を応援しています。

敦賀までの早期開業に向けて

平成37年度には、北陸新幹線の敦賀開業が予定されています。北陸経済連合会の試算では、開業に伴う北陸全体への経済波及効果は年間約8百億円に達し、開業が早まるほど経済効果が大きくなると見込まれています。

県では、敦賀までの一年でも早い開業を目指し、事業主体である鉄道・運輸機構との連携を強化。11月には、「福井県北陸新幹線建設事業推進会議」を設置し、早期の工事着手を確認したほか、工事の分離・分割発注や、県内企業のJV（共同企業体）参加要件の緩和などを強く要請しました。

また、県道と一体工事で計画を進めている九頭竜川橋りょうについては、同機構と設計に関する協定を締結し、詳細設計に着手する予定です。加えて、新北陸トンネルについても、一部の工区で来年3月までに工事が発注される予定であるなど、県内の早期開業に向けた動きを加速しています。

問 ブランド営業課
新高速交通活用推進室
☎0776-20-0765